

『あまたか関西』の発展の為に！

天草高等学校同窓会

『同南会』会長

安田公寛

例年だと花吹雪の中行われる入学式ですが、天草も今年は桜の開化が10日早かったことから、みずみずしい葉桜が新入生1626名（全日制238名、定時制12名、倉岳校6名）を迎えました。今、夢と希望に胸を膨らませた彼等の入学でキャンパス内には新鮮な風が流れています。



昨年4月不肖私が120年の歴史と伝統を誇る「同南会」会長を拝命してからあっという間に1年が経過しました。この間、私は全国各地の同南会の総会に参加して多くの会員の皆さまと親しく交流し乍ら、様々な意見やご提案を頂いて参りました。そして現在、各地区同南会の抱えておられる共通の課題が会員の高齢化と参加会員数の減少傾向であり、その対策の為にそれぞれに役員の方々が苦勞されている姿を目の当たりにして、私は

頭の下がる思いがしました。そもそも同南会はその会則に謳われているように「会員相互の親睦と融和を深め、母校の発展に寄与すること」を目的に創られた団体で、今では全国に延べ3万人を超える会員を有する県内でも屈指の同窓会です。今日まで私たちの先輩方は母校の為にと愛校心を發揮して、同南会館や正門の建設、中庭に石の噴水設置などの環境整備事業や教育補助事業等数々の素晴らしい支援を行ってこられました。これは偏に会員の皆さまが毎年納めて頂いている年会費や寄付金が原資になっていていることには言及し及びません。したがって会費を納めて下さる会員の減少は大きな問題であり、各地区同南会の課題に留まらず同窓会全体の課題として捉え、その克服のためにどうすれば良いかを真剣に考えなければならぬ時期に来ていると思います。

近年、本格的なIT時代を背景に私たちを取り巻く環境は大きく変わって来ています。特にSNS等の普及は日常生活のあり方をも変化させようとしていることは皆さまもご承知の通りです。当然のこと乍ら変化の速さは若い世代ほど著しく、高校生として例外ではないようです。天草高校の場合は部活動等を通じてしっかりと連帯感が養われているようですが、最近の若者の傾向としてはネット上で個人同士が繋がってさえいれば良いという考えで、実際に何か既存の団体等に属することには抵抗があるようです。このような世相の変化が参加会員の減少に拍車をかけているのかもしれない。

そこで私からの提案ですが、各地区会（支部）に於かれても「学年委員」にもっと活躍して頂いては如何でしょうか。例えば総会の開催にあたって幹事学年、準幹事学年を決めて企画から運営まで全て任せては如何でしょうか。準幹事学年は幹事学年より5学年ほど下位にしたら良いかもしれません。更にその5年下位の学年を順々幹事学年にすればなお効果的だと思います。実はこのやり方は本部の大同窓会で実施して、それなりの成果を上げています。そしてもっとITを活用して案内、周知の方法等に知恵を絞れば良いとも考えています。また、今年から母校で行われる同窓会の入会式には各地区会会長に出席して頂き、各地区同窓会への参加を直接呼び掛けてもらうことにしましたが、その効果が期待しています。何れにしても同南会本部と各地区同南会の連携の強化を図るために必要な会則の見直しもしていく予定です。

最後に天草高校関西同南会（あまたか関西）の益々のご発展と会員の皆さまのご多幸を祈念し私のご挨拶と致します。



平成29年度 天草高校科学部受賞一覧

- 熊本県高等学校
生徒理科研究発表大会 地学部門
最優秀賞（県1位）
- 第61回日本大学生科学賞 熊本県審査
審査員特別賞
- 第77回熊本県科学研究物展示会
優賞
- サイエンスキャッスル2017九州大会
優秀ポスター賞
- 九州高等学校
生徒理科研究発表大会 地学部門
優秀賞（九州2位）

七夕の歌

天の川 浮津の波音騒くなり 我
が待つ君し 舟出すらしも

万葉集 第8巻 山上憶良

これは七夕の夜に、織姫星（おりひめぼし）が彦星（ひこぼし）を待っている様子を描いた歌です。万葉集には、130首を越える七夕に関連する歌がありますが、そのほとんどは、男女の恋の物語として詠まれています。



第2回三支部交流会

天草高校同窓会の関西、関東、中京の三支部交流会が、昨年9月23、24日に中京支部のお世話で、会場は前回と同じ信州白樺湖畔の「白樺リゾート 池の平ホテル」開催されました。

関西4名、関東14名、中京7名の総勢25名の参加で、男性が13名、女性が12名でした。第1回が参加者10名でしたから5.5倍に増えました。

第1回の交流会では、当時同ホテルグループの専務取締役の矢島静子先輩(高女29回卒・下浦出身)も意見交換会にご出席いただいたのですが、一か月後に逝去されました。

今回は矢島先輩の墓参も兼ねていきましたので、初日の午後には全員でお墓参りをしてきました。

夜は大宴会となり、心行くまで親睦を深めることができました。

更に二次会はカラオケ組と勉強会(各支部会長、副会長、事務局長、希望者)、また温泉や部屋でのおしゃべりと三つのグループに分かれました。

二日目は、世界の影絵美術館等見学とホテルのオプショナルツアー(北八ヶ岳の苔の森散策)に別れて午前中を過ごしました。14時過ぎ、ホテル玄関前で解散式。そしてそれぞれの帰路につきました。

今年の幹事支部は中京支部の担当で、今回の趣旨・目的は以下の通りとしています。



ます。

「天草高校同窓会関東支部・関西支部・中京支部は母校天草高校を縁として各地区に同窓会を発足させました。それまでは、各地区がそれぞれ二十数年独自で同窓会活動をしてきました。交流があるとすれば1年に一度それぞれの支部を訪問する程度でしたが、一昨年、初めての交流会を持ったところ、各地区で抱えていた問題点・課題等が共通のものであったことがわかりました。同じ活動をしている会として交流を持ちつつ、問題点の解決を図り親交を深めて行きたいと思

います。とりわけ、今回の交流会は各支部の発展に貢献された故矢島静子先輩の墓参を兼ねて、池の平ホテルに会場を設定しました。」

次回は今後、関東、あまたか会の幹事支部で実施されます。関西からも多数の参加を期待します。なお今年から各支部という名称が地区区分南会と変更されますので、「三支部交流会」の名称も変わるようになりますが、今後の話し合いで決定されます。

同窓会駆けある記

各地の同窓会へ「あまたか関西」を代表しての出席には、山中会長にいちばん無理をお願いしているところですが、今年度いただいたレポートを紹介します。

関東あまたか会

「総会友好の集い」

平成29年度・創立34周年・第32回「関東あまたか会総会・友好の集い」が10月29日、「スクワール麹町」で開催されました。台風の影響が心配される雨の中、112名の参加でした。

来賓参加は菅浩天草高校副校長(八代高卒54歳)、安田公寛関西南会会長、大谷寛中京支部会長、廣田忠広関東東水会(富岡水産高校同窓会)会長、井上正三天草工業高校同窓会東日本支部会長、それに私。又、会友参加は本島昭男「あまたか関西」副会長、園田肇生東京天草育英会理事長でした。

関東あまたか会は、それぞれの役員さんが法被を着てこまめによくお世話して下さるのが印象的でした。そして、松尾和幸会長がもう一期連投されることになりました。

集いの最後は、「牛深ハイヤ踊り」をワンポイントレッスンを受け、全員で繰り返し練習をして、本番へと、おおいに盛り上がりました。来年は10月14日(日)、同じ「スクワール麹町」で開催予定です。

二次会は大雨の中、銀座「赤石(本渡出身86歳のママさん経営)」につれていかれ12〜3人で大騒ぎしまして、新幹線最終に帰り、「あ〜疲れた・・・」。ばってん楽しかったです。

関西

「大同窓会」

11月18日天草アレグリアホテルにて関西大同窓会が開催されました。参加総数270名という過去最高の出席者で、主幹事が高25回生、副幹事が高30回生・高35回生でした。講演は高25回卒産婦人科医片瀨美和子さんによる「やはり、子どもは授かりもの」〜今どきの産婦人科あれこれ〜でした。勉強させられました。

当番幹事による出し物、高25回生は男性による、あの懐かしい「天高体操」、やや大きめの腹を出しながらも大奮闘。高30回生は女性陣による、最新バージョンの「ハイヤ踊り」、すごい迫力。高35回生は男性陣の「モダンダンス」、ずいぶん練習されたのだと感心しました。

又、安田会長よりコメントを頂きましたが、各支部について、それぞれ独自に築いて来られた各地区の「あまたか会」を支部と格下に見かねない呼び名はやめにして、それぞれ平等である点を考慮し「地区関西南会」と称するよう会則改正を検討している、と伺いました。有り難い事です。

私も今回で3回目の参加でしたが、ひいき目でしょうか、だんだん盛り上がりてきているな〜と感じました。